

# カキ生育情報

第 3 号  
千葉県農林水産部  
令和 2 年 7 月号

6月の気温が平年より高く、果実の発育は平年より進んでいる。摘果は不整形果や病害虫被害果を中心に、枝管理は込み合った所の枝葉の間引き等を行う。炭疽病やカキノヘタムシガ等に対する病害虫防除も重要な時期となる。

## 令和2年6月の気象

令和2年6月の半旬別の気象を表1に示した。平均気温は第4半旬を除く全ての半旬で平年より高かった。月平均気温は22.4℃で、平年より1.7℃、前年より1.5℃高かった。

降水量は第3及び第6半旬を除く全ての半旬で平年より少なく、第2半旬は降雨がなかった。月合計は207mmで、平年の85%、前年の69%であった。

日照時間は第2及び第4半旬を除く全ての半旬で平年と同じか少なかった。月合計は140時間で、平年の105%、前年の89%であった。

本年の関東地方の梅雨入りは6月11日で、平年より3日、前年より4日遅かった。

表1 令和2年6月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	気 温 (°C)			降 水 量 (mm)			日 照 時 間 (時間)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	22.1	19.7	20.5	6	26	2	28	29	34
2	22.8	20.1	19.7	0	29	137	39	26	16
3	23.2	20.3	18.6	52	47	75	13	22	24
4	21.1	21.2	22.0	41	45	13	28	20	52
5	21.4	21.1	20.6	51	55	48	13	18	9
6	23.8	22.0	23.9	58	43	25	19	19	22
平均/計	22.4	20.7	20.9	207	244	299	140	133	157

## 樹及び果実の生育

6月30日現在のカキの果径を表2に示した。横径は「西村早生」及び「松本早生富有」が2地区の平均でみるとそれぞれ3.71cm、4.09cm、「富有」が3.88cmであった。本年の横径は「西村早生」が平年の107%、前年の104%であった。「松本早生富有」が平年の109%、前年の101%であった。「富有」は平年の110%、前年の101%であった。

縦径は「西村早生」及び「松本早生富有」が2地区の平均でみるとそれぞれ3.05cm、3.26cm、「富有」が3.21cmであった。本年の縦径は「西村早生」が平年の111%、前年の107%であった。「松本早生富有」が平年の115%、前年の108%であった。「富有」は平年の115%、前年の107%であった。

果形指数は「西村早生」及び「松本早生富有」が2地区の平均でみるとそれぞれ1.22、1.26、「富有」が1.21であった。本年の果形指数は3品種共に平年より小さく、縦長の傾向であった。

本年の果実の発育は3品種共に平年より進んでいる。暖地園研の着果量は「西村早生」が平年より少ないが、「松本早生富有」及び「富有」が平年並みである。なお、本年の生理落果は6月中旬に始まり現時点ではまだ終了していないと思われる。いずれの品種も落果量は平年並みである。今のところ目立った病害虫の発生はみられない。

## 票2 果実の生育（6月30日の果径）

品 種	調査地	横 径(cm)			縦 径(cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
西村早生	いすみ市	3.62	3.44	3.49	3.11	2.74	2.65	1.16	1.25	1.32
	暖地園研	3.80	3.49	3.65	2.98	2.74	3.04	1.28	1.27	1.20
	平 均	3.71	3.47	3.57	3.05	2.74	2.85	1.22	1.26	1.26
松本早生富有	市原市	4.09	3.86	4.04	3.22	2.79	2.99	1.27	1.38	1.35
	暖地園研	4.09	3.64	4.07	3.30	2.86	3.05	1.24	1.27	1.33
	平 均	4.09	3.75	4.06	3.26	2.83	3.02	1.26	1.33	1.34
富 有	暖地園研	3.88	3.52	3.83	3.21	2.80	2.99	1.21	1.25	1.28

果形指数：横径/縦径

平年：暖地園研は1990年～2019年の平均、いすみ市は1998年～2019年、市原市は1999年～2019年の平均

### かん水

夏季の高温及び過乾燥が続くと、根の生育が停止して果実肥大が抑えられ、熟期の遅れ、着色不良、糖度不足、翌年の着花量不足などが生ずるので、かん水が必要である。特に、乾きやすい園、作土の浅い園では早め、多めに行いたい。

### 病虫害防除

7月から9月上旬は、炭疽病、落葉病、うどんこ病とカキノヘタムシガの防除時期である。炭疽病は雨滴によって飛散伝染するため、降雨が多い場合は特に留意する。

カキノヘタムシガの2回目の幼虫の食害が始まるため、8月中旬に防除を行う。なお、6月17日発行の病虫害発生予報によるとカメムシ類の発生は並みとなっている。今後最新の情報を参考に発生が多い場合は、8～9月が防除適期となる。防除に際しては、千葉県農作物病虫害雑草防除指針を参照に行う。

### 7～8月の作業

#### 摘 果

「西村早生」では、果頂部が凹んでいる果実あるいは部分的な生育不良により不整形になった果実は、渋果の恐れがあるので摘果する。なお、8月中旬頃と収穫前の9月にも、渋果を樹上選別するための摘果を行うので、7月の時点では目標着果数（10 a 当たり12,000果）より2割程度多め（10 a 当たり14,000～15,000果）に果実を残しておく。

なお、いずれの品種も目標着果数を下回る場合は、樹勢のバランスを保ち隔年結果を助長しないようにするため、不整形果や病虫害被害果の除去など必要最小限の摘果にとどめる。

#### 枝管理

せん定が不十分であったり、不定芽（陰芽）が多く発生している所は、枝葉が込まないように芽かき、摘心を行う。また、枝葉が込み合っている所や葉が傷んでいる場合も、病害の発生を抑え、枝の充実を図るため、枝や葉を間引きして風通しを良くする。特に、炭疽病の発生した枝は果実等への感染源になるので必ず摘除する。なお、2次伸長枝はこの時期は放任する。

枝葉が少ない場合は徒長枝等もせん除せず、ねん枝や誘引によって葉数確保に努める。

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

【生育情報の問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話0470-22-2961】  
※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。